



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第13号

発行:レムナントキリスト教会

価格:100円（送料込みで200円）

【目次】

- ◎聖書からのメッセージ:新しく生まれる エレミヤ
- ◎高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(9)「ダーウィンは進化論が証明できないことを知っていた」
- ◎箴言から学ぼう!:争いを避けるには?
- ◎詩篇を読む:キリストの名はなぜ、ずば抜けているのか?
- ◎キリストを信じた体験談:信じるまでのこと フィベ
- ◎聖書に関する偉人のことば:ウィリアム・F・オルブライト
- ◎ご案内:聖書贈呈、聖書通信講座

<聖書からのメッセージ>

「新しく生まれる」エレミヤ by エレミヤ

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書3:3-5

3:3 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

3:4 ニコデモは言った。「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎にはいって生まれることができますようか。」

3:5 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることができません。」

今回は「新しく生まれる」として、テキストから学んでいきたいと思えます。このテキストの中で、イエスはもし私たちが神の国を見るつもりがあるなら、その人は誰でも「新しく生まれなければ」ならないことを語りました。新しく生ま

れる?聞いたことのないことばかも知れませんが、このことはキリスト教の用語で、「新生」とも呼ばれ、聖書の中で大事な教えです。

私たちが死後滅びに入ることを目指す、というのではなく、逆に神の国やら天国に入ろうと志すなら、このこと、新生すること、新しく生まれることは大事、というより、聖書的には必須な事柄なのです。あたかも電車に乗るには切符を持っていることが必須であるように、また、ディズニーランドに入るには入場券が必須であるように、神の国を見るには「新生」が必須なのです。

さて、必須なのは分かったとして、その新生とは具体的にどう行われるのでしょうか?テキストの中でニコデモが質問しているように、すでに生まれて大人になっている我々が、一体どのようにして新しく生まれることなど出来るのでしょうか?こんなに大きな大人の体になった我々では、再度お母さんのお腹に入って生まれ

新しく生まれる エレミヤ

る、というわけにもいかないでしょう。この質問に対するイエスの答えは、「人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができません。」というものです。要するにその新生とは御霊、すなわち神の霊により行われるものである、と言われているわけです。

神の霊で生まれる？何かオカルトみたいな話だな、と思う人もいるかも知れませんが、日本人の常識に合うかどうかは分かりませんが、しかし聖書の中では、霊に関することが沢山出てきます。そもそも聖書の神は肉体を持っておられるのではなく、霊であり、霊的な存在なのです。聖書は霊を重要視し、人を生かすものは肉（肉体）というより、霊である、と語っています。今は詳しく説明する時間が無いのですが、とりあえず霊は重要である、ということが聖書の立場であることを覚えておいてください。

さて、さらに話を進めて、もし聖書の言う通り、神の霊を通して私たちが新生、新しく生まれることが出来る、として、それはどのようにして可能なのでしょうか？人間の赤ちゃんが生まれるためには産院に行きますが、霊の産院にでも行くのでしょうか？

このことに関して聖書は以下のように語っています。

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書1:12

1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

ここでは神の子どもとされることが書かれています。すなわち新生し、神の霊により新しく生まれ、その結果、神の子どもにされることについて書かれているのです。そして新生し、新しく生まれ、神の子どもとなること、その方法に関連して、「**この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。**」と語っているのです。この方とは、キリストです。ですからキリストを受け入れ、そのキリストの名を信じるこそが、新しく生まれる方法なのです。そしてキリスト

を信じた人こそ新生し、神の子どもとされる特権にあずかる、とここでは書かれていることを知ってください。

キリストを信じるという、分かり易く言えば、非常に簡単な方法をここで神は語っているのです。このことは少なくとも入学金300万円を払って医科学校に入るよりも簡単です。900万円でお墓を買ったり、3000万円マイホームを購入するよりも簡単なのです。また、10年間もフィギュアスケートの練習に明け暮れて、その上でオリンピックで優勝するより、ずっと簡単なのです。信じるだけですから時間も1時間もかからないし、お金も一円もかからないのです。

このように非常に易しい道、神の国に入る為の入りやすい道を神は我々に用意してくださったのです。しかしだからと言って、ここへ入る人が多いわけではないのです。このことは非常に不思議です。ですからこのように書かれています。

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書1:5

1:5 光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。(闇はこれに気付かなかった)

キリストは真理として来られ、私たちの歩むべき方向を示す唯一の光として来られたのですが、不思議にも闇の中を歩んでいる人々はすぐ自分たちの近くにいるこの光には気付かないのです。また、受け入れようとも信じようともしないのです。さらにこうも書かれています。

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書1:11

1:11 この方はご自分のくんに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。

神はイエスを遣わし、彼はユダヤの救い主として来られたので、皆、彼を信じるために殺到しそうなのですが、そうはならず、逆に自分の民であるユダヤの人々はキリストを受け入れなかったのです。事実キリストのその生涯の最後は、民による拒絶、また十字架の死でした。

新しく生まれる エレミヤ

神が我々に対して至れり尽くせりの道を講じ、簡単な道を用意したから、と言って、皆が受け入れる、というものでないことが分かっていただけかもしれません。これはユダヤ人だけでなく、日本人も同じです。

さて、このように聖書は新しく生まれる、新生について語ります。このことばはどんな風に聞こえるでしょうか？ 大げさなことばに聞こえるでしょうか？ 新生などと言うけれど、ことばだけで、どんな風にしたって人は変わることなどあり得ない、とそんな風に思えるでしょうか？

個人的なことを書くのは恐縮ですが、私自身の経験を通して、この新生ということを語りたいと思います。私は日本では珍しい聖書のことばを信じるクリスチャンとして冒頭のことば、「人が、水と御霊によって生まれる」、すなわち神の霊によって新しく生まれる、ということは事実起きる、ということを経験から知っています。それでこのことは事実であると証言します。神のことばは真実であり、人の期待を裏切ったり、失望させるものではありません。逆に神のことばを信じた人は神が約束に答えてくださるのを見るようになります。何を言っているのか？ と言うと、私は大分前、まだ高校生の時ですが、冒頭のことばを聞き、それを信じ、キリストは神の子である、と信じるようにしたのです。

その結果、その後、新生、新しく生まれた、という風にしか表現できない経験を自らの人生の中で経験したのです。具体的にはどういうことか？ と言うと、キリストを信じたあと、確かに自分の上に神の霊（聖霊と呼びます）が下り、自分がそれこそ、新しく生まれたかのように、別の人になったのです。どんな風が変わったのか？

一つは性格が変わってしまいました。それまでは、はっきり言って自己中心な人間だったのですが、少しずつ人のことを考えられるようになりました。それまでの自分の目標、方向は、一生懸命勉強して自分を高め、名声を得て、ということだったのでしたが、そのような歩みが空しいものであることに心の底から気付きま

した。それで人の助けになるような人生を歩みたいと思うようになりました。自分の人生の目標が変わってしまったのです。事実、今牧師として神のことばを人に伝える働きに連なっています。さらに他人に対する思いも変えられてきました。以前は憎らしい人、恨みに思っている人、復讐したいと思っている人があちこちにいました。他人からケンカを仕掛けられたり、意地悪されたり、嫌な目に会ったことが自分の心から忘れられなかったのです。憎い、悔しい、益々そのような思いが心の中で増幅されたりしていました。

しかしキリストを信じ、神の霊に触れ、新生してから自分の思いも変わってきました。何と云うのでしょうか。神の愛が自分の心の中に湧いてきて、自分ではなく、神の愛により、人を愛せるようになったのです。クリスチャンになったからといって、意地悪な人が世の中からいなくなるわけではなく、今でも嫌な目に会うこともなくはないのです。しかし嫌な目に会ったからといって、復讐しよう、という気持ちよりも、むしろ神の愛が自分の中に湧いてきて、そのような人のために祈ったり、とりなしをする気持ちも起きてくるのです。このような気持ちは以前キリストを信じ、新生する前には決して起きなかった気持ちなのです。

ですので、結論として申し上げたいのは、神のことばは偽りではなく、真実であり、この神のことばを真実とし、ことばに従って、キリストの名を受け入れた人は約束通り、それこそ新生し、また、神の国を見るようになる、それは事実である、と申し上げたいのです。



ニコデモとイエス

高ぶりを打ち砕く進化論の誤り(9)ダーウィンは進化論が証明できないことを知っていた

人はどこから誕生したのか？その問題に関して聖書は「神が人を創造した」と述べます。しかし日本においては、学校で進化論が教えられており、人は猿から進化したと説きます。では、その進化論は正しいのか？それをこのシリーズで見えています。

進化論は疑いようのない科学的事実である、それは私たちにとっては常識かもしれませんが、しかし調べてみるとそうでもありません。前号で見ましたように、多くの科学者が進化論の信憑性に関して疑いを持っています。

さて、進化論はそもそも誰が言い出した理論か、と言うと、多くの方が御存知のように、19世紀にダーウィンにより提唱された理論なのです。

そして今はもう多くの人が知らない事実があります。それは他でもないダーウィン自身が進化論は証明されない単なる仮説であり、理論であることを知っていたのです。彼はこう言っています。

“現在、自然淘汰[進化論]を信じることは、完全に一般的な考察を根拠としなければならない...詳細の一つ一つを取り上げるなら、我々は一つの種が変化したことも証明できないし...変化したとしても、この理論の基礎であるように、その変化が有益だったことを証明することも出来ない。”

ここに書かれていますように、彼は進化論の基本である「種の変化」に関して、「我々は一つの種が変化したことも証明できない」ことを語っていたのです。そして、このことは今も同じです。現在に至るまで、誰一人、一つの種も変化したことを証明できないのです。

ですから、いわば進化論とは、科学的な根拠は無いが、彼のみは固く信じている信仰のようなものなのです。だからこそ、彼は上記で「**信じる**」ということばを使っているのです。

ダーウィンの熱烈な使徒、また献身的な弟子である、トーマス・ヘンリー・ハックスレーも同様に、自分の進化論的意見が、いかなる真の科学事実や証拠に基づいたものではなく、どちらかと言えば「宗教的」表現であることを認めています。

「諸君に再度思い起こしてもらいたい。私の意見は哲学的信仰の表現以外の何ものでもなく、私にはそれ以外のいかなる名称でも呼ぶ権利がない。」

彼も進化論は証明できない一つの考え方、ある意味では科学というより、信仰のようなものであることを知っていたのです。何の科学的根拠も無いが、しかし自分はこの理論を信じる、という信仰なのです。このように、人の始まりに関して述べた進化論とは、何ともあやふやで信じるに足りない理論なのです。

進化論の言う偶然による生命の発生に関して、プリンストン大学のエドウィン・コンクリン生物学教授がこう言いました。**「偶然に生命が発生する確率は、印刷工場の爆発によって完全な辞書が出来上がる確率と同じだと考えていいだろう！」**(「リーダーズ・ダイジェスト」1963年1月号、92ページ)

進化論者たちがすべての生物の進化の根源だと言う、いわゆる「単細胞」に関しては、「ルック」誌が**「細胞はニューヨーク市と同じくらい複雑である」**と発表しています。(「ルック」1962年1月16日号、46ページ)

一つの細胞、単細胞なら、偶然に出来るだろう、と19世紀の(知恵のない)進化論者は考えたのですが、現在ではそんなことは確率的にあり得ないことが分かってきたのです。人が神に逆らって建てた進化論、という理論、それはまさに崩壊寸前です。



ダーウィン

箴言から学ぼう！：争いを避けるには？

〔聖書箇所〕箴言13:10

13:10 高ぶり(KJV訳:自尊心、誇り、自慢、高慢)は、ただ争い(KJV訳:論争)を生じ、知恵は勧告(KJV訳:忠告、助言)を聞く者とともにある。

ひとつ質問させていただいてもよろしいでしょうか？今まで誰とも争ったことが一度も無い、というお方はいらっしゃいますか？著者が知っている人の中で、じつはそういう人がたった一人おりました。「私は今まで一度も人と争ったことはありません。」と言われた方がおられて、それは立派だなあ、素晴らしいなあと思いました。そのことばに続いて、「でもね、私は単なる馬鹿なのかも知れません。何か嫌なことを言われたりされたりすることがあっても我慢するのが一番だと、それしか考えられないからです。」ということをおっしゃっていたのですが、そんなことは無いと思います。聖書にハッキリと「高ぶりは、ただ争いを生じ」と書いてあるからです。そうなんです。人と争う＝高ぶりで見なされてしまい、このことは聖書では奨励されていないのです。

けれども、突然そんなことを言われても、「じゃあ何かあったらどうするの？もし、一方的に嫌な目に会わされた時はどうなの？」と思われるでしょう。この世の常識から言えば、言われたら言い返す、やられたらやり返す、場合によっては倍にして返す、といったところでしょうか？しかし聖書においては、たとえこちら側に非が無かったとしても、そこで争ってしまうときに、「高ぶっている」と見なされてしまいますので、それは避けていきたいと思います。

では、そうならないためにはどうするのか？と言うと、「**知恵**」を得ることにヒントがあります。さらに、「**知恵**」を得るにはどうすれば良いのか？と言いますと、「**勧告**」を聞くことにポイントがあります。KJV訳では、「**忠告**」とか「**助言**」とあります。いったい誰の忠告や助言を聞くのか？と言いますと、神さまから聞くのです。「えっ？どうやって？目に見えない神さまがどんな風に忠告や助言をするの？」と不思議に思われるかもしれません。それはですね。聖書のことばやキリスト教会で語られているメッセージを通してという方法もありますが、場合によっては、人との何気ない会話であったり、あるいは起きている状況とかトラブルを通してだったりすることもあります。たしかに神さまは目には見えませんが、肉声で語るということは恐らくありません。しかしそうだからと言って、全く助言や忠告を与えないか？と言うと、そうではなくて、神さまの不思議な方法でお一人一人に必要なこ

とを語ってくださるのです。

それで、神さまの忠告とか助言が高ぶらないこととどんな関係があるのか？と言いますと、神さまの言うことに素直に応じていくときに、高ぶらずに済んだり、自ずと争いを避けたりすることができるのです。「信じられない！」と思うかもしれませんが、そうなのです。あるクリスチヤンの話なのですが、その方は職場の同僚に意地の悪いことを言われたり、されたりしたそうです。しかしその時にひたすら神さまに祈ったそうです。それが一番の解決方法だと信じて、そのことを実践されたところ、相手の人と争うことなく、無事、解決できたそうです。大分前に聞いた話なので詳細は覚えていませんが、恐らくその方は問題の渦中において、神さまに祈るのがベストだという語りかけをどこかで受けて、そのことを実践されたのでは？と思います。そう、忠告や助言を何らかの形で聞いて、そのまま実行に移した結果、争いを避けられたのだと思います。それこそ高ぶりからも、守られたのだと思います。

ですから、もし誰かと争いになりそうかなあ、なんていうことがありましたら、まずは一呼吸置いて、どうすべきなのか？を祈ってみることをおすすめいたします。そうしていくときに、何か良い知恵や方法が与えられるのでは？無事、解決できるのでは？と思います。また、同じ箴言の別の箇所には、「**争いを避けることは人の誉れ、愚か者はみな争いを引き起こす。**」(箴言20章3節)とありますように、神さまの前に争いを避けることは誉れに値するものであること、反対に争いを引き起こしてしまうときに、「**愚か者**」と見なされてしまいますので、何かがありましても、極力争いを避けていきたいと思います。よろしければ、このようなことをご理解いただけると幸いです。



神(イエス・キリスト)は、私たちに助言をする。

詩篇を読む:キリストの名はなぜ、ずば抜けているのか

〔聖書箇所〕詩篇8:1

8:1 私たちの主、主よ。あなたの御名は全地にわたり、なんと力強い(KJV訳:優美な、卓越した)ことでしょう。あなたのご威光(KJV訳:栄光、榮譽)を天に置かれました。

「主」とは、イエス・キリストのことです。続いて、「あなたの御名」とありまして、これはイエス・キリストの名前のことを言われております。そしてその名は「力強い」とあります。ちなみにKJV訳では、「優美」「卓越」と訳されています。要はずば抜けている、ということ言われています。さて、ではどうして、キリストの名は、ずば抜けているのでしょうか？ しかも「全地にわたり」とありますように、全世界においてずば抜けている、もっと言うなら、トップだということを言われております。そのことに関して、以下聖句を見ながらお話したいと思います。

〔聖書箇所〕使徒の働き3:1-8

3:1 ペテロとヨハネは午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。
3:2 すると、生まれつき足のきかない(KJV訳:手足が不自由な)男が運ばれて来た。この男は、宮にはいる人たちから施しを求めするために、毎日「美しの門」という名の宮の門に置いてもらっていた。
3:3 彼は、ペテロとヨハネが宮にはいろいろとするのを見て、施しを求めた。
3:4 ペテロは、ヨハネとともに、その男を見つめて、「私たちを見なさい。」と言った。
3:5 男は何かもらえると思って、ふたりに目を注いだ。
3:6 すると、ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい。」と言って、
3:7 彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、
3:8 おどりが上がってまっすぐに立ち、歩きだした。そして歩いたり、はねたりしながら、神を賛美しつつ、ふたりといっしょに宮にはいって行った。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、ペテロとヨハネはイエス・キリストの弟子であります。ちなみに聖書のことばは、そのまま文字通りにも理解しますが、しかしたとえの意味合いも使われています。そして、1～3節の「宮」とは、「教会」を指すたとえです。つまり2節では、教会に生まれつき足のきかない(KJV訳:手足が不自由な)男の人が運ばれて来た、ということ言われています。

「生まれつき足のきかない(KJV訳:手足が不自由な)」のことばにも、たとえの意味合いもあるのですが、これはクリスチャンでありながら、信仰の歩みがおぼつかない人のことを言われています。ゆえに3節にあり

ますように、彼はペテロとヨハネに歩みを助けてもらおうと施しを求めました。5節に「何かもらえると思って」とありますが、ペテロやヨハネを通して信仰が強められる、信仰を分けてもらえると、そのように思ったのでしょうか。けれどもペテロはすかさず、「**金銀は私にはない。**」と言いました。「金」や「銀」はたしかに金銭のことも言われていますが、いずれも「信仰」を指すたとえとしても使われています。ですから、「**金銀は私にはない。**」とは、「信仰は私にはありませんよ。」あるいは、「あなたに信仰を分けてあげるとは私にはできませんよ。」ということ言われていると思います。

しかしそのあとで、「**ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい**」と言いました。すると、7節、8節に、「**するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、おどりが上がってまっすぐに立ち、歩きだした。**」とありますように、男の人はまっすぐに立って歩き出したのです。自分の力で歩み出すことが出来たのです。先ほども申し上げましたように、たしかにこの男の人はペテロから信仰を分けてもらうことはできませんでした。けれども、「**イエス・キリストの名**」によって信仰が強められ、歩めるようになったのです。そうなんです。彼の足(信仰の歩み)が癒されて、しっかりしたのは他でもない、「**イエス・キリストの名**」によるのです。人間の力でもなく、あるいはイスラム教や仏教の神々でもなく、はたまたキリスト教の立派な信仰者の力でもなく、ただ、「**イエス・キリストの名**」が、彼を強めたのです。

いかがでしょうか？これはほんの一例ではありますが、聖書には他にもイエス・キリストの名によるわざについて、数多く記されておりますので、興味がありましたら読んでみてください。また、何かお困りのこととか悩んでいたりすることがありましたら、ぜひ、「**イエス・キリストの名**」によって祈り求めていきたいと思えます。余談ではありますが、私たちイエス・キリストを信じる者は、お祈りの最後に「イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。」ということばを言います。そうしていくときに、天の神さまが良し！とされたお祈りに関しては、それこそ詩篇のみことばにありますように、神さまのご威光(KJV訳:栄光)を見たりしますので、よろしければおすめいたします。



イエス・キリストの名によって歩き出した男。

キリストを信じた体験談:信じるまでのこと(フィベ)

私が信仰を持ったのは30歳を少し過ぎてからで、それから20年近く経ちました。以前は父が生物学者ということもあり進化論を信じ、日本の文化や先祖からの宗教観を大事にしたいと考えていました。キリスト教に対しては、かなり批判的でした。

キリスト教との関わりは、夫の仕事の関係で米国テキサス州に数年住んだことから始まります。テキサスは保守的な地域で道沿いには立派な教会が立ち並び、日曜日には多くの人が教会に行っていました。子どもたちの幼稚園も教会経営で、私も教会の外国人対象の無料英語クラスに通いました。多くのクリスチャンがとても親切にしてくれました。私にとって聖書は神話という認識でした。信仰については全く理解出来ず、神を信じている人を不思議に思っていました。

信仰を持つことになるのは米国生活も終わりに近い頃、ある新聞の記事を読んでからです。エイズウイルスに汚染された血液製剤が長期にわたり使用されていた、という記事でした。私は出産の際、大量出血で輸血と血液製剤を投与され一命を取り留めました。その時の薬剤が汚染されているかも知れない、まさに青天の霹靂でした。家族が感染していたら・・・このことが何より自分を苦しめました。検査に行く勇気もありませんでした。薬はなく、医学も科学も個人の能力や努力も哲学も助けにはなりませんし、人間はかくも無力な者かと思いました。今までの自分の価値観が完全に崩れ去りました。それでも家にある思想書を片端から読み、ある本の見開きに聖書のことばがありました。

“あなたがたのうちだれが心配したからといって自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。”(マタイの福音書6章27節)

神話だと思っていた聖書のことばが生きたものとなった瞬間でした。イエスは実在の方なのか?のもと、聖書をひたすら読み続けました。

“すべて疲れた人重荷を負っている人はわたしのところにきなさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。”(マタイの福音書11章28節)

心身疲れ果てた自分にとって聖書のことばは真実に聞こえました。検査の結果がどうあれ、イエスという方に預けてみようか・・・と検査を受けました。記事を読んでから二か月が経っていました。結果は

数日後でした。感染はなく本当に幸いな報せでした。

ただその数分前にもある報せを受けました。小学二年生の娘の級友が小児がんで亡くなったとの連絡がありました。生と死の報せが数分の間にありました。葬儀は三日後でした。初めてのキリスト教の葬儀でした。英語での葬儀で言葉は分かりませんが、再会の希望を感じました。確かな慰めがあり、今まで経験した日本の葬儀と全く異なっていました。葬儀の礼拝の間、「一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、」(ヨハネの福音書12章24節)ということばが心に浮かびました。

神は確かにおられる・・・。小さな女の子の死が、私にとって、真の神を知る時となりました。イエスの十字架の死が私たちの為の一粒の麦だと思いつたのです。

“天の下では何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。”(伝道の書3章1,2節)

生も死も神の手の中にあり、偶然はなくすべて意味がある、と思いました。今、神様についていく時ではないのか?それらの思いが心から離れず、葬儀のさなか洗礼を受けようと決めたのです。それから後、洗礼を受けたいと突然願い出た私を、驚きながらも快く受け入れてくれた日本人教会で洗礼を受けました。それ以後の人生も色々なことが起こり、今に至ります。人間の力のみを頼りに生きていた頃と、真の神に出会った後の人生は全く違うものとなったことは確かです。頼るべき方に頼る人生となりました。その平和に勝るものはないと思います。



幼い子どもの死を通して、イエス・キリストを信じた。

聖書に関する偉人のことば:ウィリアム・F・オルブライトのことば／お知らせコーナー

<聖書と偉人>

ウィリアム・F・オルブライト:アメリカのセム語・旧約学・聖書考古学者。幾つもの古代語を自由にあやつった。



聖書の記述中、問題となっている大きな点に関して、それらはすべて歴史的事実であることが、証明されている。

<お知らせコーナー>

●聖書贈呈プレゼント！聖書通信講座！

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか？このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか？また、ご希望の方には、聖書通信講座も開設しました。申込者全員へ、贈呈可能です。ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へ連絡ください。

- (1) 聖書贈呈に申し込みます。
 - (2) 聖書通信講座に申し込みます。
- *ご希望の番号に○をつけてください。(複数可)

郵便番号:
住所:
名前:



見本

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00
場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)
1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>